

1 題材名 「お礼ののし袋を作って渡そう」

2 題材について

(1) 対象となる生徒の実態

本学級には、7名が在籍している。支援学級では、国語・数学・英語・自立活動・生活単元を中心に、個別の実態とそれぞれが属する交流学級の時間割に応じてほぼ全教科の授業を受けている。学校においては、様々な人との関わりや多くの経験を通して、社会で生き抜く力を身に付けることを目指している。

対象となる生徒は、ADHD・知的障害の診断を受けている。WISC-V検査（令和*年*月*日）のFSIQ値によると学力は全体的に低く、特に長い文章の読解や英文法に対する理解度が低い。また田中ビネー知能検査V（令和*年*月*日）の結果ではMA（精神年齢）は*歳2か月程度であり、興奮すると暴言を吐いたり離席したりし、物を壊すこともある。片付けが苦手であり、机の中やロッカー等に荷物やプリント類を押し込むなど、人の手を借りないと整理をすることができない。身体的には、肥満傾向であるが、運動部に所属し、元気に歩いて通学することができている。

認知的には当該学年程度の漢字を読むことができるが、書字に対しては抵抗感があり、簡単な文章を書く際に全て平仮名で書いたり、文字が重なって読みにくくなってしまうたりする。社会経験は乏しく、職場体験学習の際には挨拶の声の大きさや言葉遣い、体験先の企業へのお礼状の作成などについて支援学級で指導を行った。

(2) 題材設定の理由

本題材は、「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）」（平成30年3月）の第5章「自立活動の目標」から、生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとする点を踏まえて設定した。過年度の自立活動では、「ルールを遵守して様々なゲームを行う」活動を通して、友人と楽しく活動するためにルールを理解し、共有して守ることの大切さを感じることができた。その活動をもとに、自立活動の区分に即し、②心理的な安定、③人間関係の形成、⑥コミュニケーション、についての活動を中心とした授業を展開することで、さらに卒業後も役立つスキルを身に付け困難を解消するための活動を目指していく。そして、一人一人の生徒の発達の段階に応じてそれぞれ補う活動を展開し、発達の進んでいる面をさらに伸ばすことによって、遅れている側面の発達を促すような活動を展開し、全体の発達を促進することで、より主体的な課題への取組を目指し、確実に身に付けさせたいと考え、本題材を設定した。

(3) 指導目標とリストアップされた項目及び具体的な指導内容

長期目標	集団生活のルールに合わせて行動することができる。 【 2－(3) 】 【 3－(4) 】 【 6－(5) 】
短期目標	・手がかりシートを活用して主体的に学習することができる。 【 2－(3) 】 ・自他の物の区別をし、物を大切に扱って生活することができる。 【 3－(4) 】 ・友人や教師と一緒に落ち着いて活動することができる。 【 6－(5) 】

項目 リスト アップ	1 健康 の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の 形成	4 環境 の把握	5 身体 の動き	6 コミュニケー ション
		(3) 障害による学 習上又は生活 上の困難を改 善・克服する意 欲に関するこ と	(4) 集団への参 加の基礎に 関すること。			(5) 状況に応じ たコミュニケー ションに関 すること。
指導 内 容	・なぞり書き、筆ペンの使用など自己の特性に応じた方法で学習に取り組み、できる、できたという成功体験を積み重ねることができる。 ・説明の内容を記憶して祝儀不祝儀ののし袋の形式を仲間分けしたり、行書で自分の名前を書いたりして、卒業後も役立つスキルを身に付けることができる。 ・相手の立場に合わせた適切な言葉の遣い方や場に応じた声の大きさなど、状況に応じたコミュニケーションを学ぶことができる。					

(4) 指導に当たって

指導に当たっては、生徒が関心をもって学習に取り組むことができるよう、筆ペン、複数種ののし袋など、対象となる生徒が好きな具体物を多用して行う。将来、社会人のコミュニケーションとして取り交わされる物であることを強調して学習意欲をもたせつつ、祝儀不祝儀を仲間分けする具体物の操作を通して級友とのコミュニケーションも行わせる。また、仲間分けした祝儀袋の中から、お礼ののし袋を、*年度から国語科で学んでいる行書で書いて課題を達成するという流れにすることで、目的意識を明確にして活動させる。そして、高校進学や将来の自分の姿を意識することができるよう支援していく。

3 題材の指導計画（3時間扱い）

次	時	ねらい	指導内容
1	1	・のし袋に種類があることを確認する。 ・仲間分けの基準を話し合うことができる。 ・色や水引の形によって仲間分けをすることができる。	・のし袋を用いて金銭のやり取りをする日本の伝統的な風習を知る。 ・のし袋の種類を知り、目的を知る。 ・色や水引の形の違いを手がかりに、のし袋を仲間分けする。
	2 本 時	・のし袋の仲間分けを確かめる。 ・自分の名前や平仮名を行書で書くことができる。 ・筆ペンを正しく使用することができる。	・のし袋の種類と目的、形式を確認する。 ・行書という書体の特徴を確認する。 ・つなげて書くために、点画の数や形が今まで学んだ楷書と異なることを理解して書く。
2	1	・教科で学んだ内容を生活に生かして状況に応じたコミュニケーションを行うことができる。	・国語科で学んだ敬語を使って、のし袋の受け渡しの挨拶をする。 ・渡す役、受け取る役のロールプレイを行う。

4 本時の指導

(1) 目標

のし袋の目的や形式を知り、マナーの通りに作成することができる。

(2) 教材・教具

のし袋（祝儀・不祝儀）、なぞり書きワークシート、筆ペン

(3) 展開

分	主な学習活動・内容	教師の手立て
1	1 始めの挨拶	
7	2 前時の学習内容を確認する (1) のし袋の目的による種類を確かめる。 (2) 色や水引の形によってのし袋の仲間分けをする。	・意味を理解していることを確認するために「祝儀・不祝儀」の違いを問う。 ・黒板に磁石をつけた具体物を順不同で並べ、操作して視覚的に共通点を探せるようにする。 ・前時活動している生徒は言葉でヒントを出し、初見の生徒が操作をするよう促す。 ・「お布施」「お香典」「御霊前」などの宗教による表記の違いと漢字の読みを確認する。 ・「お礼」「お祝い」など蝶結びの水引と「結婚祝い」「香典」など結び切りの水引の形の違いの意味を問い、話し合っ確認するよう促す。
2	3 本時の学習課題を知る。 (課題) お礼ののし袋とは、どのようなものだろうか。	・学んできたことを確認するために行書という書体の特徴を問い、話し合うよう促す。 ・点画の数や形が今まで学んだ楷書と異なることを理解して書く事ができるよう、「つなげて速く書くため」であることを強調する。
30	4 本時の課題に取り組む。 (1) のし袋の形式や、金額を書く時に使用される漢字を知る。 (2) 筆ペンの上手な使い方を知る。 (3) 自分の名前や平仮名を行書で書く練習をする。 (4) お祝いののし袋に名前や金額を書き入れる。	・自分の名前や平仮名、金額を書くための特殊な漢字をなぞって確認できるよう、なぞり書きプリントを用意する。 ・鉛筆と同じ持ち方をしている場合には、筆ペンを毛筆と同じように立てて持つよう、言葉かけをする。
5	5 まとめをする (まとめ) お礼ののし袋とは、色は紅白で、水引が蝶結びであることと、お互いが記入した名前や金額の位置を確認する。	【評価】 のし袋の目的や形式を知り、マナーの通りに作成することができたか。 (観察・ワークシート・のし袋) 【2－(3)、3－(4)】 <目標を達成した生徒の姿> のし袋の形式通りの位置に、自分の名前や金額を筆ペンで書く事ができた。
5	6 活動の振り返りと次時の活動の確認をする。	・見通しがもてるよう、次時は国語科で学んだ敬語を使って、祝儀袋の受け渡しの挨拶の学習をすることを予告する。